

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

神奈川県川崎市

自治体名：神奈川県川崎市

担当課名：教育委員会事務局 健康教育課

電話番号：044-200-3313

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	143.35km ²
人口	1,558,577人
公立中学校数	52校
公立中学校生徒数	30,032人
部活動数 (運動部活動のみ)	522部活
地域クラブ活動数	延べ11クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	「川崎市立中学校の 部活動に係る懇談 会」を設置（令和5 年11月）
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	令和8年3月策定

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市においては、52校の公立中学校があり、生徒数は、30,032人で757部活が活動している。その中で、運動部活動は、522部活存在している。今後数年間の生徒数については、推計では、ほぼ横ばいの傾向であり、少子化による部活動への影響は少ないと思われる。

しかし、生徒の部活動に対するニーズの二極化（楽しみたい派とうまくなりたい派）に加えて、教員の部活動に係る業務に対する負担感が増していることから、本市の部活動運営には、生徒の声に寄り添った対応と教職員の働き方・仕事の進め方改革の推進の両立が求められている。これらの課題解決策の一つとして、地域等にいる外部人材を活用するなど、将来の部活動の在り方を考えていく必要がある。

以上の課題解決に取り組むため、生徒の主体的な意見に加え、部活動を取り巻く現状、国の部活動改革の考え方、校長会との意見交換及び有識者の意見を総合的に踏まえ、平成30年度に策定した「川崎市立学校の部活動に係る方針」を改定し、令和8年3月に「かわさき部活動ガイドライン」を策定した。今後は、本ガイドラインの趣旨を踏まえ、持続可能な部活動の実現及び地域展開等に向けた検討を進める。

かわさき部活動ガイドライン

令和8年3月
川崎市教育委員会

(2) 学校部活動方針等の策定

○ 本市は、本ガイドラインに基づき、各学校「部活動に係る方針」を策定し、部活動は、生徒の主体的な意見に基づき、教員、指導員及び保護者の協力を得て実施する。また「部活動実施計画」を策定し、部活動の実施状況を把握し、必要に応じて改善を図る。また「部活動実施計画」を策定し、部活動の実施状況を把握し、必要に応じて改善を図る。

(3) 学校部活動方針等の策定



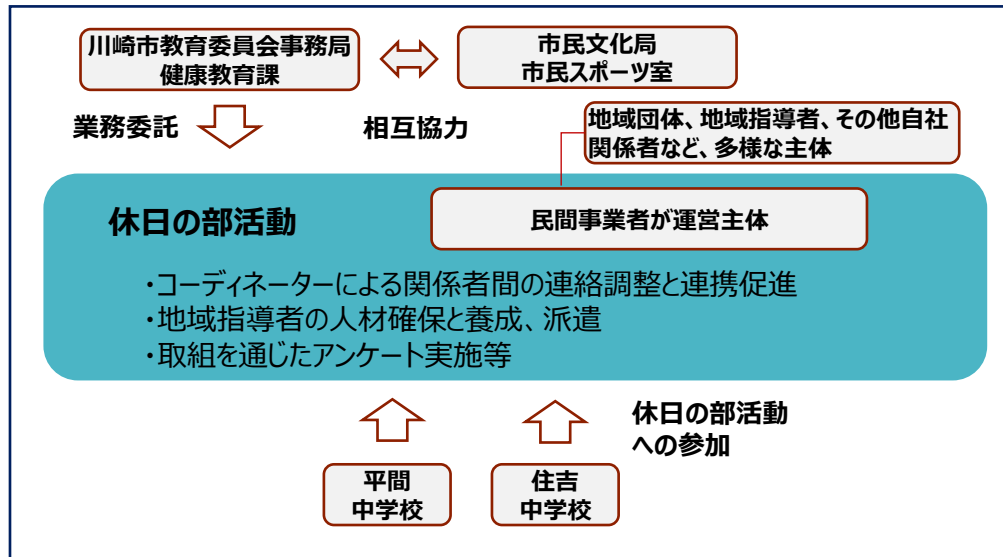
○ 各校は、当該学校の状況を踏まえ、生徒の意見に反映させ、教員、指導員及び保護者の協力を得て実施する。また「部活動実施計画」を策定し、部活動の実施状況を把握し、必要に応じて改善を図る。

【かわさき部活動ガイドライン（抜粋）】

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会事務局健康教育課

全体の調整業務等

◎市民文化局（市民スポーツ室）

地域スポーツ振興に寄与した本事業の取組に関する協力・連携

年間の事業スケジュール

令和7年4月	契約手続開始・契約締結
令和7年5月	派遣前打ち合わせ・指導者調整
令和7年10月	第5回懇談会の開催 (中間・進捗状況の報告等)
令和8年2月	第6回懇談会の開催 (成果報告・来年度に向けた検討)
令和8年3月	拠点校におけるアンケートの実施 事業完了報告書・成果報告書の作成・提供
随時	関係団体等ヒアリング (部活動改革・指導者養成ほか)

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		11クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	延べ11クラブ（延べ11部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	14人	全体の運営スタッフ数	3人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	平均実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
川崎市立平間中学校	株式会社アーシャルデザイン	サッカー、男子バスケットボール、野球、バドミントン、ソフトボール	・休日 1回	特定なし	合計対象者約183人 (内訳は不明)	5月～2月	7人	3人 (内、兼務3人)	0円	部活動
川崎市立住吉中学校	株式会社アーシャルデザイン	バドミントン、ソフトテニス、野球、サッカー、卓球、水泳	・休日 1回	特定なし	合計対象者約162人 (内訳は不明)	5月～2月	7人	3人 (内、兼務3人)	0円	部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 専門種目のアスリート、栄養士やメンタルトレーナー等の特別講師を派遣。

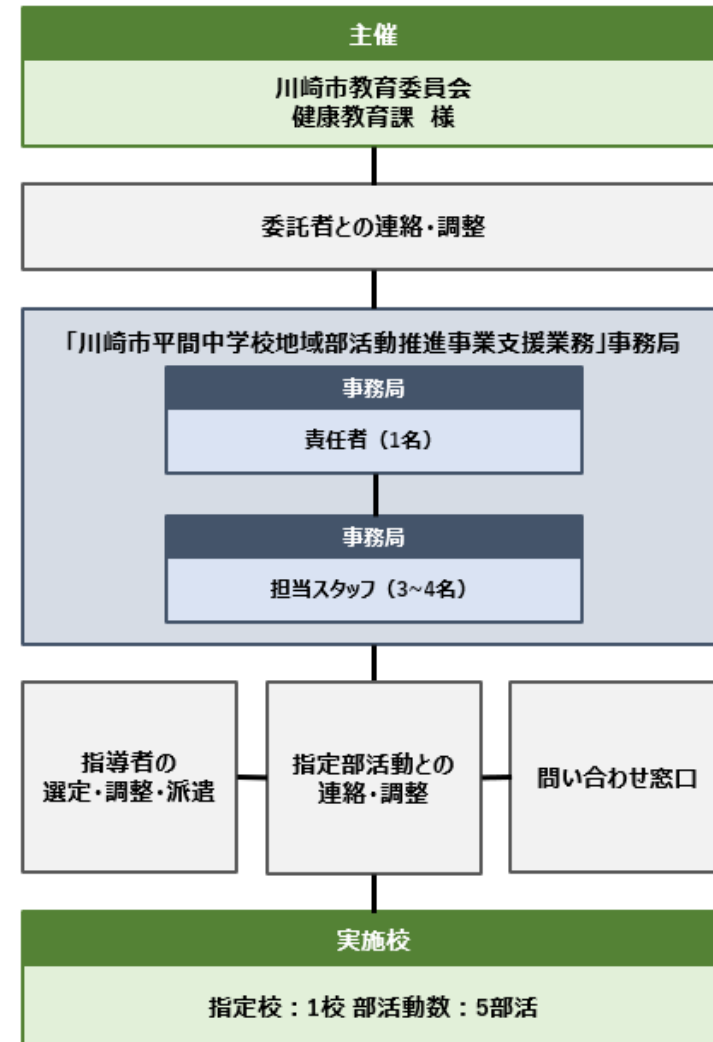
2.実証内容と成果

主な取組例

●平間中学校クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、男子バスケットボール、野球、バドミントン、ソフトボール
運営団体名	株式会社 アーシャルデザイン
期間と日数	・期間：5月～2月 ・主な日数 サッカー：月4回程度 男子バスケットボール：月4回程度 野球：月3回程度 バドミントン：月4回程度 ソフトボール：月4回程度
指導者の主な属性	川崎市内、又は神奈川県内在住の指導者
活動場所	平間中学校
主な移動手段	電車、自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



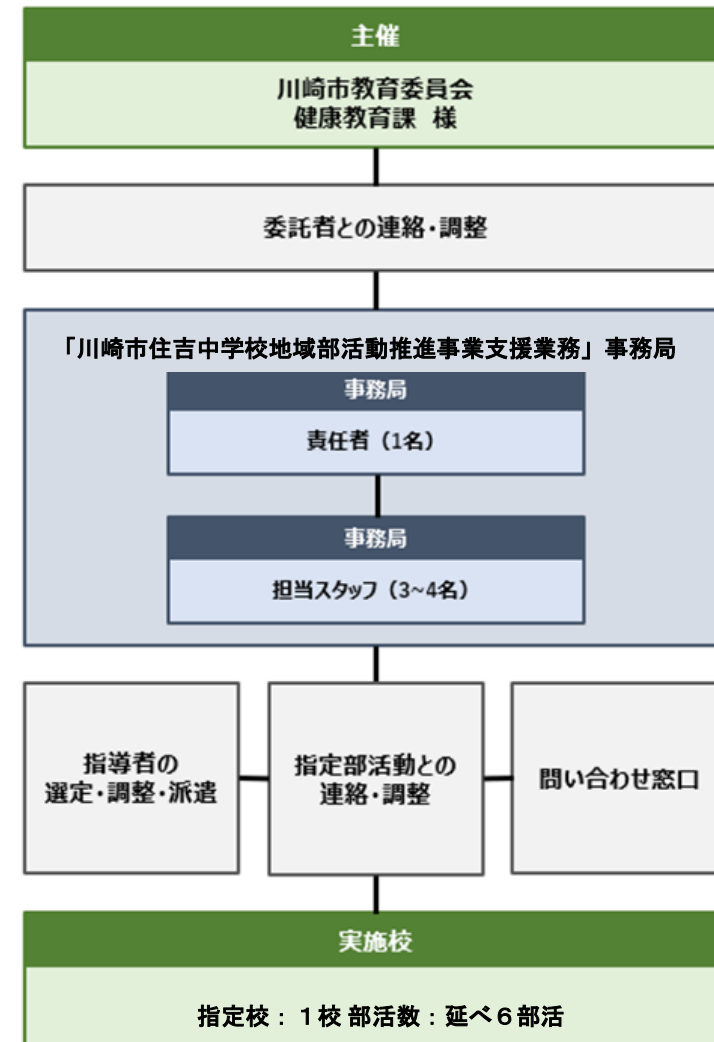
2.実証内容と成果

主な取組例

●住吉中学校クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、ソフトテニス、野球、サッカー、卓球、水泳
運営団体名	株式会社 アーシャルデザイン
期間と日数	・期間：5月～2月 ・主な日数 バドミントン：月4回程度 ソフトテニス：月4回程度 野球：月4回程度 サッカー：月4回程度 卓球：月4回程度 水泳：月4回程度（夏期のみ指導）
指導者の主な属性	川崎市内、又は神奈川県内在住の指導者
活動場所	住吉中学校
主な移動手段	電車、自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・学校の希望に応じて、専門種目のアスリート、栄養士やメンタルトレーナー等の特別講師を派遣。
- ・ICTを活用し、指導者の活動管理、調整を行い、学校とのスムーズな連携体制を構築。

取組の成果

・生徒が技術面以外にも課題に感じている部分として、「試合前の緊張」「メンタルコントロール」等の声があがっていた。

・ICTツール「b+」を活用することで、指導者の管理だけではなく、学校との連携もスムーズに行うことができていた。

活動時に発生した軽微なケガ、保護者対応、生徒間のトラブルも「b+」で学校と情報を共有していたので、迅速な対応が可能となっていた。普段の練習メニューなども指導者から「b+」を介して共有するなど、今後の連絡連携ツールとしての活用が多くみられた。



今後の課題と対応方針

- ・特別講師と通常の指導者の分けや、地域クラブ活動として行う場合どの程度までを行政が行うべきかについて検討を行う必要がある。
- ・実施事業者が変わることで、使用ツールも変わる可能性があることから、地域クラブに求められるツールの仕様や、連絡連携を一元管理する仕組みづくりなどについて検討を行う必要がある。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- ・企業の人材を活用した、アスリートや栄養学、メンタルトレーナーといった専門家と連携した講習会の実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ協会、大学教員等が委員となっている「川崎市立学校の部活動に係る懇談会」を2回開催し、川崎市のこれからの部活動について、主体である生徒の意見をどうまとめるかについてや、将来の姿、部活動においてスポーツ団体や大学がかかわる可能性について意見を聴取した。

取組の成果

川崎の部活動について意見を聴取することで、これからの部活動において協力を行う可能性のある、それぞれの団体の立場からの意見や課題を確認することができ、活動の主体である生徒から聴取した意見とともに、令和8年3月策定の「かわさき部活動ガイドライン」に反映をさせることができた。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

・スポーツ協会、大学教員等が委員となっている懇談会を開催し、部活動において、スポーツ団体や大学がかかわる可能性について意見を聴取した。

今後の取組における課題

- ・関係団体、大学、地域等への周知・広報
- ・指導者資格、研修等の整備
- ・人材確保に向けた整備
- ・受益者負担の在り方
- ・人材確保に向けた整備
- ・部活動の位置づけ

課題への対応方針

今後、令和8年度からは、地域連携に向けた上記課題の解決に向け、手法の検討を行い、令和11年度までに地域人材の活用によるモデル実施を行いながら、令和13年度までに本格実施を行う予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・学校施設利用時の設備・備品等の利用ルールの検討
- ・学校施設の鍵の開閉についての検討

取組の成果

- ・地域クラブが学校を使用する際、使用前後に備品等の点検を徹底することで、安全な地域部活動運営を実施することができた。
- ・地域クラブが学校から鍵等を借りる際は、学校の指示に従った適切な管理を行うことで、施設利用を円滑に進めることができた。

特に工夫した事項

- ・使用施設の鍵については、各学校ごとの事情に応じて、地域クラブ指導者が休日に職員室に在室中の職員から学校の施設開放の際に使用する鍵を借りる等、柔軟に対応することができた。

今後の課題と対応方針

- ・学校施設の設備・備品の利用について、学校部活動の支援として地域クラブが指導者を派遣する分には運用面で問題ないが、今後、地域クラブが顧問教員なしで独立して利用する際は、必要に応じて地域クラブ側で一部の備品等を自前で用意することが想定され、継続的な費用捻出の課題がある。
- ・学校施設の鍵の開閉については、学校の施設開放による方法を援用することで柔軟に対応できたが、将来的に学校部活動から地域クラブ活動に切り替わる際には、施設利用に関しての団体登録や利用日程調整をどうするのか、鍵の保管場所と管理方法をどうするのか、といった課題が残る。

用具使用・管理等における取組

本項目では、学校施設を活用して地域クラブ活動を実施する際の用具の使用や鍵の受け渡しについてのルールの取り決めを行った。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和7年度は、民間事業者により2校を実践研究校として延べ11部活動を対象に事業を行った。

これまでの学校へのヒアリングから、年度当初から夏期までの期間が負担が大きいことに対し、早期の指導者の派遣を求める声が多かった。そのため、4月からの契約及び5月を目途に指導者派遣を行うことができるよう、事業者・学校との調整を行ったが、上述の課題に加え、指導者の継続した確保、受益者負担については課題として挙げられている。



●成果の評価

早期の指導者派遣については、年度ごとの事業者選定となることによる新たな学校との面談、説明会の関係等、課題が残った。今後は、複数年度の契約手法や異なる事業者間での引継手法の検討など行っていく必要がある。

連絡アプリケーションを使った指導予定や日報の共有については、状況が頻繁に変化する学校という場においても「いつ指導が行えるのか」が理解しやすいものとなっていた。今後は、異なる事業者間でも同様のサービスを使用することができるよう、仕様の検討を行う必要がある。

また、地域連携に向け、継続的な人材確保に向けた体制整備、教員の兼職兼業と関係する勤務管理の手法等についても検討を行う必要がある。

●今後に向けて

52校の中学校が存在する川崎市においては、2030年頃まで生徒数が増え続ける予測であり、活動困難となる状況が少ないことから、当面は学校部活動を存続するとともに、地域と連携した部活動の手法の検討を行う。

そのうえで、地域人材の活用や合同部活動のモデル実施を行いつつ、令和11年度から、地域と連携した新たな部活動を推進する。

2.実証内容と成果②

参考資料



【指導者による指導の様子】



【指導者による指導の様子】



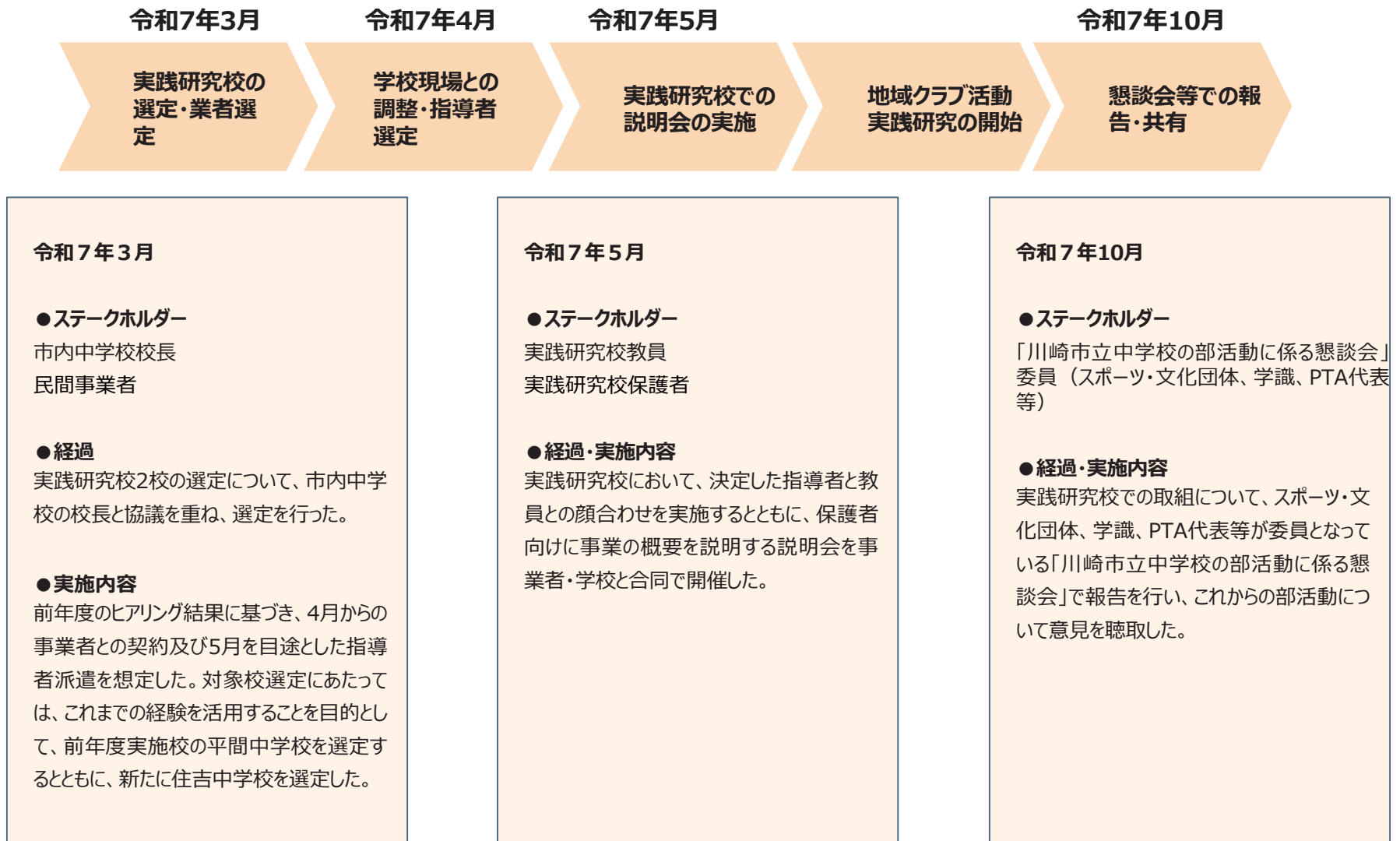
【特別講師派遣の様子】



【指導者による指導の様】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

